

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成19年11月19日
第729号

〒952-1209 佐渡市千種155
：0259(63)4156(直) 4115(代) Fax：4117
<http://www.sado.co.jp/kanaisyo/> E-mail：kanal es@sado.ed.jp



マラソン大会や遠足，文化祭といった大きな行事が終わりました。文化祭の疲れからなのか，寒さが厳しくなってきたからなのか，風邪を引いている子の姿を多く見掛けます。残りわずかの2学期です。健康には気を付けたいものですね。

鼻血について

佐渡総合病院耳鼻咽喉科
宮尾 益道

世間一般に語り継がれている鼻血の止め方には以下のようなものがあります。「鼻にティッシュを詰める」「首筋をとんとんたたく」「上を向く」。これらは効果がないばかりか，かえって鼻血を悪化させることもあります。小児の鼻血の多くは，鼻の前方からの出血なので，まずは鼻をつまんで押さえることが大切です。ティッシュを入れただけでは止血効果が弱く，鼻の粘膜をさらに傷付けてしまうことがあります。押さえる場所はふつうに鼻をつまみをするようにすればいいだけです。時々，鼻の上の方の硬いところを押さえる人もいますが，それでは止血効果がありません。鼻血の時の姿勢は，楽な体制で座り下を向くことが大切です。上を向いたり，横になったりすると血液はのどの方に回ってしまい，具合が悪くなることもあります。のどの方に回った血液は飲み込まずに口から出すようにしましょう。冬は暖房器具の使用で空気が乾燥し，鼻の粘膜が傷ついて鼻血が多くなります。部屋の加湿も忘れないようにしてください。



「ことばは人なり」

評論家の外山滋比古氏によると，音楽に「絶対音感」というものがあるように，ことばにも「絶対語感」というものがあるそうです。幼い時に一生にかかわる三つ子の魂が形成されるのと同じように，ことばにおいても乳幼児期から幼児期にかけてことばの魂が形成されます。それは，「親（特に母親）から受け継ぐことば」であり，「絶対語感」と言うべきものです。

3年生のTさんとすごろくをして遊んだ時のことです。Tさんが転がしたサイコロの目の数が，ちょうどゴールに到達する数でした。Tさんは思わず「スゲー」と声をあげました。つられて私も「スゲー」とまねをしたら，「先生は大人なのだからそんなことばは使ってはいけません。」と，Tさんにたしなめられてしまいました。とんだ失敗をしたと反省した次第です。

子育ては，ことばを教えることから始まり，子どもは家族や周りの人たちと生活する中でことばを身に付けていきます。きちんとしたことば遣いは，ほぼその人の一生を支配すると言ってもいいと外山氏は述べています。常に心の片隅に留めて指導にあたりたいと思います。（外山滋比古著「わが子に伝える絶対語感」より）

（山口）



親の会コーナー



会員の声 No.26

「ほめることの大切さ」

Y・I

5月～10月までに行われたペアレントトレーニングへ参加させていただきました。
「子どもをよく観察し、すぐにほめる！困った行動に対してはテクニックを用いる」ことを学びました。この勉強会を通して以前よりも穏やかに過ごせるようになりました。そして、子どもも意欲をもって生活しています。(親が変われば子どもも変わるのかなぁ…)と、感じています。

また、素敵な仲間に出会え、とても癒されました。



お知らせ



親子お楽しみ会について

ことば・こころの教室親の会行事「親子お楽しみ会」が行われます。詳細は後日発送する案内でご確認ください。2学期最後の行事です。大勢の方からの参加をお待ちしております。

日時 平成19年12月9日(日)
10:00～14:00

会場 金井小学校(佐渡病院隣)

内容 親子クッキング(シチュー、ホットケーキ)
クリスマスパーティー



書籍・ビデオ等の貸し出しについて

金井小学校内のことば・こころの教室には、子どもの発達や子育てに関する書籍、過去の教育講演会のビデオ等があります。会員の皆様にも随時貸し出しをしています。気軽にお立ち寄りください。

